

みやぎ会津会の会長に就任

―仙台市で二月二十八日に開かれた設立総会で、正式に「みやぎ会津会」が発足しました。

―昨年夏に有志が集まり、会設立に向けて準備が始まってから約半年。

会則や活動方針などの決定、入会希望者の募集など発起人メンバーの努力で、ようやくスタートラインに立つことができました。

―あいつ会は三十年ほど前にもあったそうです。

―当時、仙台市でリース業の会社を設立したばかりで宮城県内には知り合いはいませんでした。

ある会合で会津出身の方と出会い、入会のお誘いを受けました。当時のメンバーは約十人で、父親、母親ほど年齢が離れてい

る方々ばかり。二カ月に一回程度の懇親会ではありましたが、皆さんが若い私を心配してください。

―生活や家族のことなど、よく相談に乗ってくださいました。また、仕事の上ではさまざまな業界の方々を紹介してもらい仙台市内での交際範囲を広げていくことができました。残念ながら二十

年ほど前に自然消滅してしまいました。当時、公私にわたって精神的支えとなっていた会の存在が、今回の会設立のきっかけになったと言っても過言ではありません。

故郷と交流、魅力再認識

―会の活動では会津地方での交流会も実施したいとのことですが。

―年に一度は会津に戻って、地元の方々と語り合いたいと考えています。われわれは「故郷会津」への望郷の念ほど

も強いです。会津出身を誇りに思っています。

―われわれは会津を離れましたが、会津の自然や文化、伝統を守り続ける方々との交流で故郷の良さを再認識できることも多いでしょうし、親交を深めることができれば会津人の輪も広がっていくのではないのでしょうか。

―会津地方と宮城県との懸け橋としても期待されています。

―わたしたちは人々との交流を中心に活動していきたいと思っています。会の懇親会や研修会などを通して、会員がお互いに刺激し合い、励ま

し合う。会津の方々には交流会を通して、仙台市を中心とした宮城県の経済や文化、観光への取り組みなどさまざまな情報を伝えることで刺激にもなると思います。当然、会津の伝統や文化を宮城県内にもどんどん広めていきたいと考えています。そういう意味では、まず、会員同士の交流、意見交換が盛んに行われる会になればならないと思っています。

―学生、若い世代への激励も視野に入っていますね。

―文武両道を常とする会津の魂を持った若者には、宮城県内にかかわらず、全国で活躍してほしいと思っています。今の若い世代の人たちは自立した欠点もありませんが、個性がないように感じられます。会津の豊かな自然と厳しい気候の中では、くまれ、強い信念を持った若者たちが自分の能力を存分に発揮できるように応援していきたいと思っています。

須佐 尚康さん

東洋ワーク社長
仙台経済同友会幹事

―総会当日も会場に入会希望者のご参加があり、最終的に百二十人を超す方々からご連絡いただきました。ここまで多数の方に賛同していただけたとは思っていません。設立記念パーティーには村井嘉浩宮城県知事、菅家一郎会津若松市長をはじめ関係者が多数お祝いに駆け付けてくださった、会への期待と会長としての責任の重さをあらためて感じています。



すさ・たかやす 金山町生まれ。日大東北高、日大工学部卒。リース業、製造業などの会社を経営後、昭和63年人材派遣業を主とする東洋ワークを設立（仙台市青葉区）。東北経済倶楽部副理事長、仙台経済同友会幹事などを務めている。60歳。

聞き手
黒沢 一省